令和2年度「ひとり1改革運動」 7月推進月間改革賞受賞事例紹介

新型コロナウイルス感染症対策「事業継続計画(案)」
～新たな脅威に対応した「BCP」を作成～

【富士土木事務所 企画検査課 企画班】

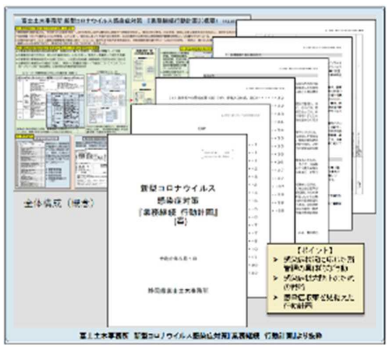
事務所の全職員が安心して働けるようＢＣＰを作成

全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下においても、県民サービスを継続的に行うため、警戒レベルや感染者の発生に対応した業務の継続は重要な課題である。

このため、富士土木事務所として、どのように業務を継続させるかを念頭に新型コロナウイルスに特化した事業継続計画（ＢＣＰ）（案）を作成した。作成にあたっては、まずは早期に取りまとめることを念頭に、若手職員から幹部職員まで協力して完成させた。

結果として、所管業務の緊急度や継続レベル等を整理できたことで、職員全員が業務により精通し、以前より安心して業務を行うことができるようになった。また、若手職員が他課の窓口業務も実施するなど、より危機管理体制も高めることができ、事務所全体の一体感も高まった。

富士土木事務所
BCP（案）の作成



取りまとめにあたり、訓練も実施
⇒各職員の意識も向上！

若手職員が、別課の窓口業務に対応
⇒事務所の危機管理力が向上！

【常葉大学　酒井　准教授　から一言】

「新型コロナが発生した場合、限られた資源でどのように業務に対応するか」に焦点を当てた素晴らしい事例だと思います。特に重要度を考慮して対応方法を検討している点は、リスク管理の基本をしっかりと抑えた優れた取り組みとなっていると思います。

新型コロナウイルスの検体搬入時の安心・安全の確保

【環境衛生科学研究所 微生物部 ウイルス班】

新型コロナウイルスの検体受渡手順の明確化で搬入者の安心・安全を確保

環境衛生科学研究所では、新型コロナウイルスのＰＣＲ検査のため、県内保健所から検体を受入れており、検体搬入時は搬入者立ち会いのもと、運搬ケースを開けて検体を取り出し搬入数等の確認を行っている。

検体はウイルス漏洩防止のため、専用ケースで密封されているが、搬入者の中には運搬ケースを開けた際の感染を懸念する職員もいた。

そこで、検体搬入時の手袋装着やアルコール消毒等の手順を明確化し、検体の搬入場所へ掲示した。その結果、搬入者の不安が解消され、検体搬入時の安心・安全が確保された。

【検体搬入時の様子】

【静岡産業大学　小泉　教授　から一言】

本事例は、ＰＣＲ検査検体の搬入・受渡しという危険性を伴う業務において、業務プロセスを明確化し、情報共有を徹底することによって、安全性の確保と効率性の向上という両立が難しい成果をあげており、ＢＰＲのモデルとなるものです。関係機関と共同する業務の改善であることも高く評価できます。